



からし種 夏

第 90 号

今号の主なラインナップ

- ◇ P.2-3 聖書翻訳統計レポート（前編）
- ◇ P.4-5 海外聖書製作支援
- ◇ P.6 JLS Bible プロジェクトの意義
- ◇ P.7 後援会ニュース／前号クイズ正解
- ◇ P.8 献金状況／募金部から



なんと美しいことか

山々の上で良い知らせを伝える者の足は。

— イザヤ書 52 章 7 節より —（聖書協会共同訳）

UBS80 年 —「ともに仕える」歩み

1946 年、第二次世界大戦が終わった直後、世界の聖書協会の代表たちがイギリス・ヘイワーズヒースに集まり、聖書協会世界連盟（UBS）が誕生しました。戦時下でも聖書を届け続けた彼らは、「協力することで、もっと多くの人に聖書を届けられる」と確信していたのです。

その後の 80 年、UBS は約 150 の聖書協会が協力する世界的ネットワークへと成長し、240 以上の国と地域で「すべての人に聖書を」という使命を担ってきました。翻訳、普及、識字教育、デジタル聖書など、時代ごとの課題に応えながら、“Serving Together（ともに仕える）”の精神で働きが広がっています。

80 年の歩みは、神さまの導きと、世界中の教会・支援者・働き人の祈りと協力によって築かれてきたものです。そして今、まだ聖書を自分の言葉で読めない人々のために、翻訳と普及の働きをさらに進めていくことが求められています。UBS は次の世代へ、神のことばを届ける使命を担い続けます。



世界の翻訳現場で起きている“静かな前進”



United Bible Societies

2025年に出版された聖書翻訳 （注1）

2025年UBSは



100

100言語で新たな聖書翻訳を出版しました



566 million

さらに5億6600万人が母語でみことばに触れる機会を得ました （注2）

初めての聖書翻訳が



66

66言語で完了しました （注3）



32 million

3200万人が使う言語です



13

旧新約聖書



3

新約聖書



50

部分訳

新しい翻訳や改訂が



34

34言語で行われました （注4）



534 million

5億3400万人が使う言語です



6

旧新約聖書



1

旧約聖書



3

新約聖書



20

部分訳



4

スタディ版

注

1. 聖書協会は、これらの翻訳を完成させる際に、他の翻訳機関と協力することがよくあります。
2. ここでは、その言語または方言を第一言語として使う人々の数を指します。このデータの主な出典は ProgressBible™（2026年1月時点）です。
3. 「初翻訳」とは、その言語で初めて聖書の一部（あるいはある程度まとまった部分）が出版されたことを指します。なお、その言語で他の聖書箇所がすでに出版されている場合もあります。
4. 既存の翻訳が地域社会のニーズに合わなくなったとき、新しい翻訳や改訂が行われます。



2025年、世界の聖書協会は約5億6,600万人が使用する100言語で新たな翻訳を出版しました（図：左）。この数字の背後には、聖書の初翻訳事業の広がり、既存訳の改訂作業という地道な働きが同時に進んでいる現実があります。聖書協会世界連盟（UBS）総主事ディルク・ギバース氏は語ります。「人々が自分の母語で聖書に触れられるようにすることは、今もなお、私たちの最重要課題です。聖書翻訳とは、単なる言語作業ではないのです。読む人に明確に意味が伝わるのが大切で、その言語を用いる人々の文化的背景を理解した上で適切な訳し方をすることが求められます。そしてその人が実際に使える形（点字・手話訳・音声・デジタル版など）で提供できるようにする必要があります。

のです。毎年大きな前進が続いているとはいえ、残された課題に取り組むためには、継続的な協力を得ての長期的な取り組み、安定した資金が不可欠です。」

今号から2回に渡り、このレポートをできる限り詳しくご紹介いたします。

1. 初翻訳：66言語で“初めての聖書”が誕生

2025年は、66言語（話者3,200万人）で初めて聖書の一部または旧新約全体が翻訳されました。（図：中央）内訳は、旧新約聖書：13言語、新約聖書：3言語、聖書部分訳：50言語です。

●特に注目すべきは話者が多い大規模言語での初翻訳（旧新約聖書）完成という歴史的前進でしょう。東オモロ語（エチオピアの先住民族の言語・1,080万人）、現代ヘブライ語（イスラエ

ル言語・610 万人）で旧新約聖書が初めて完成したことです。現代ヘブライ語の初翻訳の意義をもう少し説明します。これまで旧約聖書が書かれた言語である（古代）ヘブライ語は、現代ヘブライ語を母語とする今のイスラエル人にとっては読みにくいものでした。そこで「聖書の言語を母語とする人々が、実は聖書を母語で読めていなかった」という不思議な状況が長年続いていました。このことが解消されたのは大変画期的なことと言えます。

●中南米・アフリカの先住民言語での聖書翻訳が大きく進んだことも特筆すべきことです。メキシコのザポテコ語、ミセ語、マサテコ語など、方言差が大きい 10 万人前後の話者がいる先住民の言語群で、聖書部分訳が出版されました。グアテマラでは、キチェ語（230 万人）、カクチケル語（60 万人）など、合わせて約 300 万人が話す先住民言語で初翻訳（部分訳）が実現しました。アフリカでは、ガーナのダガーレ語（92 万人）、ガボンのジェビ語（14 万人）で旧新約聖書が完成しました。

●手話訳での初翻訳

2025 年は、手話訳聖書翻訳が世界的に広がり著しい進展が見られました。世界では 39 の手話言語で 59 の手話訳が公開され、特にラテンアメリカがリードしています。ブラジル手話（63 万人）、アルゼンチン手話（6 万人）、チリ手話（2.1 万人）、エクアドル手話（5 万人）で部分訳が完成し、アジアではインドネシア手話（81 万人）、フィリピン手話（54 万人）、アフリカではナイジェリア手話（80 万人）でも新しい手話訳が誕生しました。聖書協会の働きが、聴覚障がい者コミュニティにも確実に広がっています。

2. 新翻訳・改訂版：34 言語で“現代の読者に合わせた読みやすい翻訳”に改訂

翻訳は一度出版して終わりではありません。言語は変化し、読者層も変わりますし、聖書研究も進みます。そのため、改訂は翻訳事業の中核といっても過言ではありません。2025 年は 34 言語（話者 5 億 3,400 万人）で新翻訳・改訂版が出版されました。

●大規模言語での改訂として、ベトナム語（8,620 万人）、アフリカーンス語（南アフリカの主要言語、780 万人）、カビル語（北アフリカのベルベル系言語、アルジェリアで話者 800 万人）などがあります。これらの改訂は、これらの語を母語とする人々の“聖書理解”をより深くするための作業であり、翻訳者・教会・信徒が長年積み重ねてきた対話の結晶と言えます。



●点字聖書の初出版として、ガーナのアカン語（の一方言であるアシャンテ・トウィ（※写真右）、ウガンダのソガ語（ルソガ語）、ジンバブエのンデベレ語で、点字版（または点字部分訳）が新たに完成しました。

●スタディ版の増加

ラオ語、西アルメニア語などで 注解・背景説明を含むスタディ版聖書が出版されました。これは、世界的に「聖書を深く理解したい」というニーズが高まっていることを示しています。

（次号に続く）

クリスチャン人口が増えるキルギスの必要を覚えて

4月に発行いたしました「いのちの糧」内で発表した海外支援先に少々変更がありました。今年はキルギス聖書協会も支援することとなりました。皆さんに馴染みがあまりないかもしれないキルギス（旧名・キルギスタン）について、簡単にご紹介いたします。



中央アジア最大級の山脈である天山山脈に抱かれたキルギス共和国は、人口約700万人の山岳国家です。国土の約9割が山地で、古くからシルクロードの要衝として多くの民族や文化が行き交ってきました。キルギスの人びとは、トルコ系民族につながる言語と文化を持ち、馬や羊とともに季節ごとに移動して暮らす遊牧の伝統を大切にしてきました。歴史の中では、突厥（とっけつ・トルコ系遊牧民族の帝国）やウイグル、モンゴル帝国など周辺の大国の影響を受けながらも、山岳地帯で自分たちの生活文化を守り続けてきました。19世紀にはロシア帝国の支配下に入り、ソビエト連邦時代を経て1991年に独立しました。

宗教は人口の約9割、630万人がイスラム（スンニ派）ですが、ソ連時代の無宗教政策の影響もあり、信仰の持ち方には幅があります。多くの人が「自分はムスリム」と考えつつも、礼拝に通う人は少なく、地域の慣習や家族の伝統とゆるやかに結びついた、穏やかな宗教文化が見られます。

一方、キルギスには約49万人のクリスチャンがいて、公式に登録された教会は355教会あります。歴史的に言ってもロシア正教会が中心ですが、現在はペンテコステ派やバプテストなどプロテスタントが最も活発で、30万人程度を占めています。カトリックは8教会と小規模です。昨今では、イスラム系民族出身のクリスチャンが増えており、9万人以上いるといわれています。

この地で1996年から活動进行するキルギス聖書協会は、2018年にUBSのメンバーとなりました。必要とするすべての人に聖書を届けることを目標とし、キルギス語聖書の翻訳、子ども・若者・女性への聖書教育支援、諸教派の協力を深める活動、トラウマを抱えた人々への聖書に基づく心のケアなどの活動などを行っています。

その中で、最も重要で基本となるものはキルギス語聖書の翻訳です。キルギス語聖書はこれまでもいくつかの教派団体によって翻訳されてきましたが、文体が古かったり、教派によって受け入れが分かれたりする課題がありました。そのため、キルギス聖書協会は、教派横断の翻訳委員会を立ち上げ、現代の言語感覚に合った新しいキルギス語聖書の翻訳を進めています。すでに2005年には新約聖書が完成しましたが、旧約聖書の翻訳はまだ道のり半ばです。翻訳は順調に進んでいますが、新しい訳の必要性が十分に理解されていないこと、若い世代の読書離れ、政府の宗教的文書に対する規制、インフレによる印刷費の高騰など、現場はさまざまな課題に直面しています。それでも、教派を超えて聖書を届けたいという願いのもと、翻訳チームは粘り強く働きを続けています。

このプロジェクトを中心に、キルギス聖書協会を支援してまいります。

アフリカの人々に聖書を届けよう ー韓国聖書協会とともに

韓国聖書協会（以下 KBS）と日本聖書協会は隣国の聖書協会として長年協力関係にあります。KBS は、自前の印刷設備を持つ数少ない聖書協会で、その印刷部門（Bible Korea）を通して、アフリカのフランス語圏諸国の聖書協会に向けて フランス語聖書や現地語聖書を製作し寄贈する働きを続けています。2026 年度からは、日本もこの KBS のプロジェクトを支援することにより、アフリカのフランス語圏諸国に聖書をお届けする一助を担っていくことになりました。

KBS が支援対象としているアフリカのフランス語圏諸国の国名の一部を挙げます。コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、コートジボワール、ブルキナファソ、ニジェール、セネガル、トーゴ、ベナン、カメルーン（仏語圏部分）、ブルンジ、マダガスカル、中央アフリカ共和国などです。毎年、フランス語聖書や、翻訳作業が完成した現地言語の聖書を韓国国内で印刷製本し各国 BS（年に十数か国に及ぶこともあります）に贈呈していますが、その中で今年度支援予定のベナンについて簡単に触れましょう。

ベナンは西アフリカの沿岸国、人口は約 1,300 万。公用語はフランス語ですが、フォン語（Fon）やガン語（Gun）など多言語社会です。人口の約半数がクリスチャン（カトリック 25%、プロテスタント 23%）です。ベナン南部で広く話されるガン語聖書翻訳は、ベナン BS が長年取り組んできた重要なプロジェクトです。ガン語は約 150 万～200 万人が使用する主要言語で、母語で聖書を読めるようにするための働きとして、翻訳の改訂作業、点字聖書製作などが続けられています。昨年度はベナン BS にフランス語聖書を贈呈しましたが、今年はこのガン語聖書を寄贈します。

韓国聖書協会を通してアフリカの国々にみことばを届けるこの働きに、お祈りとご支援をお願いいたします。



ガン語聖書翻訳メンバーの一部



KBS の印刷部門では最新技術で印刷・製本・搬送を行うことができます

ウクライナをご支援ください

ウクライナでは今も不安と緊張の中で多くの人々が聖書のことばを必要としています。レイキネツ副総主事をはじめ、現地の教会と聖書協会は避難民や子どもたちに寄り添い、希望を届け続けています。どうか皆さまのお祈りとご支援を通して、この働きを共に支えてください。



数字から見る JSL Bible プロジェクトの意義

JSL Bible (一般社団法人日本ろう福音協会)

広報担当 **安達 そら**

厚生労働省の調査によると、日本には約37万人の聴覚障がい者・言語障がい者がいらっしゃいます。ただしそこには補聴器や人工内耳を活用しながら日本語で生活している方々も含まれ、その中で、日本手話を第一言語としているろう者は、専門家によると約4万～8万人といわれています。日本のクリスチャン人口がわずかであることを考えると、日本手話を第一言語とするクリスチャンろう者はさらに少ないことになります。



「対象者の少ない働き」だと感じる方も少なくないでしょう。しかし、私たちはこの働きの価値を数字だけでは測れないと考えています。日本手話を第一言語とするろう者にとって、日本語の聖書は必ずしも「自分の言語」の聖書ではない、という事実は変わらないからです。御言葉を自分の言語で受け取ることは、神様との出会いにつながり、確実に人生に影響を与えるきっかけになります。「自分の言語で聖書を受け取る」ことがまだ当たり前ではない世界が、同じ日本にあるのです。

現在 JSL Bible では「ヘブライ人への手紙」の本番撮影を終え、公開に向けた編集作業を進めています。「コリントの信徒への手紙一」8-10章はチーム編成を見直ししながら下訳修正を行っており、「ヨハネの黙示録」1-5章は、クリスチャンのろう者の方々に翻訳の質を評価していただくための準備を進めています。



イエス様は、99匹を残してでも迷った1匹を探しに行く羊飼いのたとえを語られました(マタイ 18:12-14)。私たちもまた、その「1匹」のために働きたいと願っています。数字も大切です。しかし、それ以上に大切なのは、聖書を受け取った「一人」が、自分の言語で御言葉に触れ、そこから図り知れないほどの愛を感じられることです。そのために、JSL Bible プロジェクトは今日も翻訳を続けています。

「ヘブライ人への手紙」の翻訳現場の様子

1. 会費（ご献金）納入方法について

昨今、郵便料金など各種の料金が値上げになっております。皆様からお預かりする後援会費やご献金をできるだけ有用に用いさせていただくため、日本聖書協会で負担する手数料について見直しを検討中です。今後の会費納入やご献金時のご参考になさっていただければ幸いです。

現在、会費納入につきましては以下の方法がございます。①～⑤につきましては皆様には手数料がかかりません。

- ①こちらからお送りする「コンビニ振替用紙」（赤い文字で印刷された用紙）を使用してコンビニから振込（使用期限有）
- ②①の用紙を使用して郵便局から振込
- ③こちらからお送りするその他の献金用の郵便局振替用紙（赤い文字で印刷された用紙）に後援会費と明記して振込
- ④口座振替
- ⑤専用サイトからクレジット払い（サブスクリプション形式）
- ⑥銀行口座への直接振込

● ②・③の「郵便局（ゆうちょ銀行）からの振込」につきましてその手数料（振り込まれたご献金からJBSが引かれる金額。振込金額5万円未満の場合）をお伝えいたします。

- a. 現金での通常振込 ・窓口を利用する場合 203 円・ATM 利用 152 円 です。
- b. ゆうちょ口座からの送金 ・窓口 146 円・ATM 100 円
- c. ゆうちょダイレクトご利用（パソコン、スマートフォンを利用してインターネット上でお取引を行うサービス・要申込）手数料無料（月5回まで利用できる）となっています。

● ①「コンビニ払い」④「口座振替」には代金収納会社に月々の基本料金と1件ごとの手数料をお支払いしております。

● クレジット払いの場合はオンラインサイト運営料と振込額の3.6%を支払っております。

● ④⑤はこちらから請求書をお送りしないため、そのための送料はかかっておりません。

2. ご友人やご家族を後援会にお誘いください

後援会員は2005年度には3,700人いらっしゃいました。しかし、現在では2,370人程度まで激減しております。皆様の教会や関係する団体でも同様の現象があるかもしれません。新しい会員を増やす必要をひしひしと感じております。どうか、皆さまの教会、ご家族、ご友人に、日本聖書協会の後援会をご紹介くださいませ。そして、祈りとともに、聖書普及活動ご支援ください。どうぞよろしく願いいたします。

イースター特別プレゼントクイズ解答

いつもクイズに多くの会員の方々からお答えいただき、ありがとうございます。

2026 春第 89 号のクイズの解答をお伝えいたします。聖書そのものを味読していただくためのクイズですので、聖書から離れたお答えでなければ、多少異なる章節やその言葉でも正解とした場合がございます。

解答

- 1) 復活のイエスと出会ったから（第 89 号P. 1の塩谷先生の文章3～4行参照）
- 2) 「恵みに」よるもので、「異邦人に御子を告げ知らせる」ために（ガラ 1:15-16）



後援会ニュース

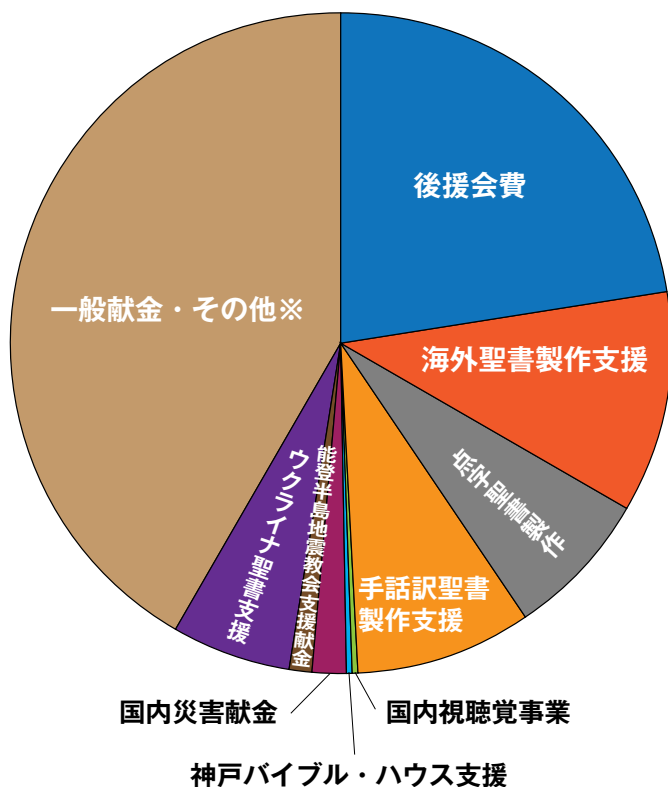
2026年度 献金状況(4月末現在)

献金累計額 15,551,010 円 (うち後援会費 3,517,000 円)

(2025 年 11 月～2026 年 4 月末 累計)

◎ 2026 年度 献金状況の内訳

現在の後援会員総数 2,370 名様



後援会費	¥3,517,000
海外聖書製作支援	¥1,698,943
点字聖書製作	¥1,106,179
手話訳聖書製作支援	¥1,363,286
国内視聴覚事業〈AVACO〉	¥22,430
神戸バイブル・ハウス支援	¥33,430
国内災害献金	¥266,420
能登半島地震教会支援献金	¥193,920
ウクライナ聖書支援	¥873,415
一般献金・その他※	¥6,475,987

合計 ¥15,551,010

※いわゆる一般献金としてお受けした以外に、クリスマス、イースター、UBS DAY、ペンテコステ、聖書日・聖書週間献金他が含まれます。

募金部から

恵みの雨とはいえ、梅雨明け空の待ち遠しい季節でございます。今号では、結成 80 年目に入りました UBS の 2025 年聖書翻訳統計レポート（前編）をお届けいたしました。66 もの言語で初めての聖書翻訳がなされ、母語で聖書に触れられる方が 3,200 万人も増えたことは大変喜ばしいことです。しかし、これは世界中にご支援くださる方々がいらしてこそ、成された業です。主に導かれ、聖書普及のため宣教のために働く兄弟姉妹を覚えお祈りいたしましょう。また、国内にも目を向けていただき、西日本のエキキュメニカルな聖書普及の拠点である神戸バイブル・ハウスの運営のため、キリスト教視聴覚センター・AVACO の事業のため、お祈りとお支えをお願いいたします。酷暑が予想されます。御身大切にお過ごしくださいませ。

(募金部 森脇)

JAPAN BIBLE SOCIETY
JBS 一般財団法人 日本聖書協会 募金部



〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1 Tel: 03-3567-1980 Fax: 03-3567-4436

Eメール: fund-raising@bible.or.jp ホームページ: <https://www.bible.or.jp/>

◆郵便振替 00160-2-18410 ◆銀行振込 三井住友銀行 京橋支店(普通) 6552744

※ニュースレターへのお便り、お問い合わせも上記までお願いします。